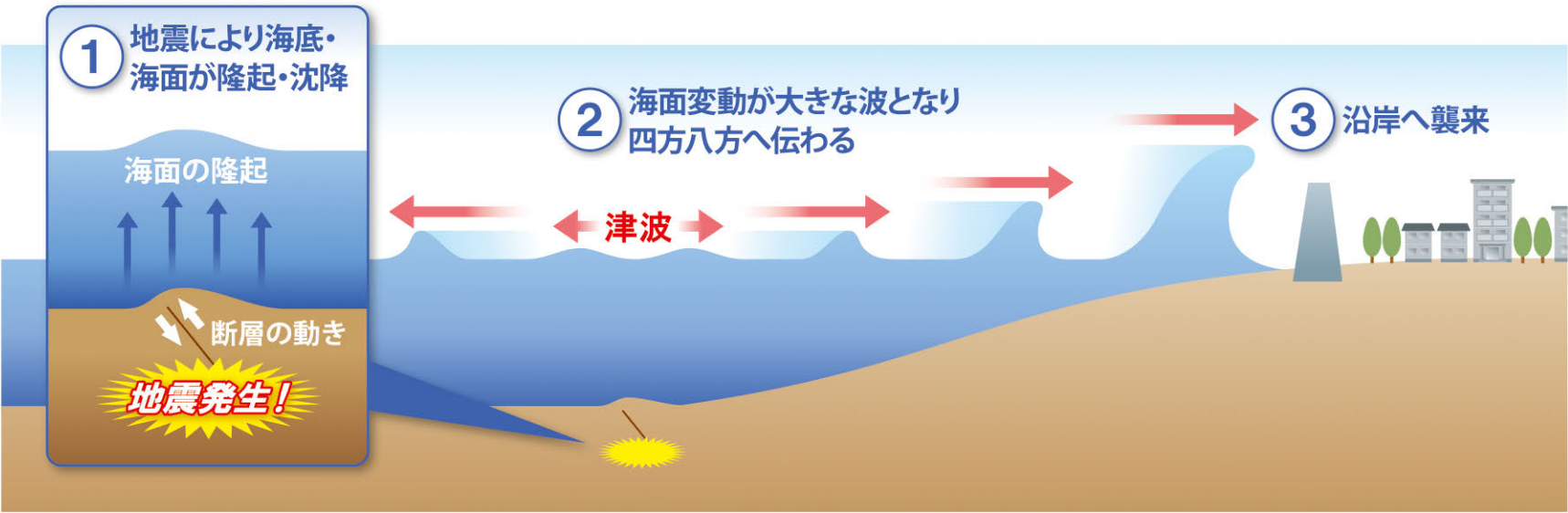


津波の発生と伝わり方

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝わるものが津波です。



津波の特徴

地震・津波はいつ、どこで発生するか分かりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波の特徴を知り、身を守るためのポイントをしっかりと確かめておきましょう。

恐るべき津波の破壊力

普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。

引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。

津波

堤防・防潮堤

波浪

堤防・防潮堤

津波の速度は速い

津波の陸上をさかのぼるときの速度は、時速36km程度になります。これはオリンピックの短距離走者並みの速度です。

津波が見えてから、走って逃げ切ることは非常に困難です。

津波は河川を遡上する

津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。

遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。

津波は繰り返し襲来する

津波は繰り返し襲ってきます。また、最初の波が最も大きいとは限りません。

一度波が引いても、津波注意報が解除されるまでは気を抜かず、避難を続けましょう。

引き潮があるとは限らない

津波は引き潮から始まるとは限りません。よく、津波の前には引き潮があると言われていますが、地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくることがあります。

屋内の安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、家具の転倒やガラスの飛散等により、大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。

収納に工夫を

- タンスや本棚などにものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにします。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。

照明器具の補強を

- 吊り下げ式の照明器具は、チェーンなどで止めておきましょう。

置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味にします。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫を。

ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。

耐震金具を利用しよう

転倒防止金具

壁や柱と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。

重ね留め用金具

重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。

扉・引き出し開放防止金具

地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを置いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。

屋外の安全対策

地震の揺れにより、ブロック塀などが崩れてケガをしたり、ガスボンベや貯湯タンク、エアコン室外機等が倒れるなどした場合に、火災やけがにつながる場合があります。事前に家の周りを点検し、屋外の安全性を高めておきましょう。

壁・塀

- 壁や塀にひび割れなどがなく、腐ったりしていないか点検しましょう。
- ブロック塀は、地震の揺れにより崩れる可能性があるため、できれば安全な生垣などにしましょう。

ガスボンベ

- ガスボンベは、動かないように壁等に固定しましょう。
- ガスボンベの周りには、物を置かないようにしましょう。

緊急地震速報を見聞きしたら

「緊急地震速報」は、最大震度が5弱以上と予想された場合、または長周期地震動階級3以上が予想された場合に、震度4以上が予想される地域、または長周期地震動階級3以上が予想される地域を対象に気象庁より発表され、テレビ・ラジオ・防災行政無線などを通じてみなさまに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。

ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



屋内では…

- 頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。
- あわてて外へ飛び出さない。



山やがけ付近では…

- 落石やがけ崩れに注意する。



車の運転中は…

- あわててブレーキをかけない。
- ハザードランプを点灯し、路肩に寄せてゆっくり停止する。



エレベーターでは…

- 全ての階のボタンを押して、停止した階で、すぐに降りる。

地震・津波発生時の行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。海岸付近で強い揺れを感じた場合は、すぐに津波が襲来することがありますので、津波警報や津波注意報の発表を待たず、ただちに高台などに避難してください。

地震発生！ 津波発生！

- 1 地震の揺れから身を守る**
- 落ち着いて、自分の身を守る。
 - 火の始末、ガスの元栓を閉める。
 - ドアや窓を開けて、出口を確保する。



- 2 津波警報を待たずに、ただちに避難する**
- 揺れがおさまったら、津波のおそれがある区域に居る人は、ただちに避難する。
 - 「より遠く」ではなく「より高い場所」へ避難する。
 - くずれたブロック塀や散乱したガラスなどに注意。
 - できる範囲で、地域の避難行動要支援者の手助けを。

避難が間に合わないときは
近くの一時的避難場所(高台)へ!

- 3 津波情報を入手する**
- 安全な場所に移動してから、防災無線やラジオなどで情報を確認する。
 - 間違った情報や、うわさ、デマなどに惑わされないように注意する。
 - 安全が確認されるまで、自宅・沿岸部には戻らない。
- (東日本大震災の際、一旦避難場所に避難していたが、自宅等に戻ったところで被災したというケースもあります)



- 4 避難施設や自宅へ移動する**
- 津波警報が解除されたら、一時避難した場所から、避難施設などに移動し、家族と合流する。
 - 避難生活では、集団生活のルールを守り、助け合いの心を持つ。



大津波警報・津波警報・津波注意報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。大津波警報や津波警報のときは、すぐに以下のような行動をとりましょう。

種類	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表	巨大地震の場合の発表		
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。	●木造家屋が全壊・流失します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	●標高の低いところでは津波による浸水被害が発生します。 ●人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	●海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 ●養殖いかだが流失し、小型船舶が転覆します。

●震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
●津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
●地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

地震の揺れがおさまったらすぐに避難

揺れがおさまったら、津波警報や津波注意報の発表を待たずに、ただちに安全な高台へ避難しましょう。揺れと同時に津波が襲来する場合もあるため、沿岸にいる場合はすぐに避難してください。

また、津波からの避難は一刻を争うため、情報を待っていると逃げ遅れる場合があります。情報の収集は安全な場所へ移動してから行ってください。

津波避難の心得



小さな揺れでも油断禁物

たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



正しい情報を聞く

ラジオ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましょう。



より高い場所へ避難する

海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



車での避難は控える

車は約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。